

起震車に乗って、感震ブレーカーのデモ機を体験しよう

令和7年7月15日
京丹後市消防本部

令和6年1月、能登半島地震において地震後の電気が起因する火災が多く発生しました。このことを踏まえ消防庁では、防火対応策として、地震時の電気火災リスクを低減するため感震ブレーカーの普及啓発を進めています。そこで、当消防本部では感震ブレーカーのデモ機を作製し、やさか納涼祭で、起震車の地震体験とともに、地震時に作動する感震ブレーカーがどのようなものなのか説明を行います。

実施日時・場所

- ・ 日時：令和7年7月19日(土) 14:00~17:00
※(雨天順延なし)
- ・ 場所：「丹後王国」 京丹後市弥栄町鳥取123番地
- ・ 2025TANGOやさか納涼祭

実施内容

- ・ 感震ブレーカー(デモ機)展示
- ・ 起震車体験
- ・ 防災パネル展示
- ・ 水消火器取扱い

お問合せ先

京丹後市消防本部 予防課

電話番号 0772-62-5119 / FAX番号 0772-62-6119

E-Mail office-fire@kyotango.net

今すぐ
対策を!

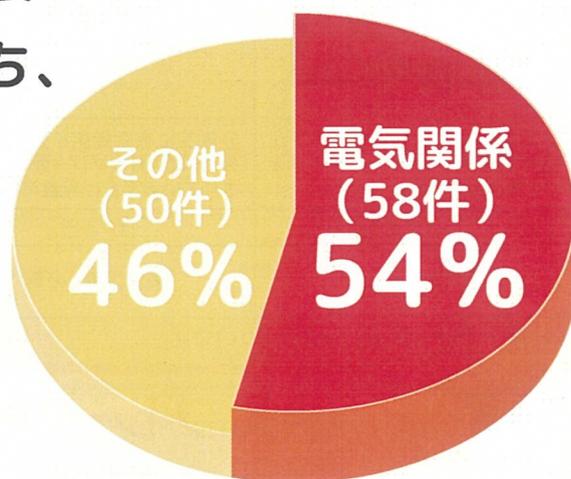


地震による 電気火災 対策を!

かん しん 感震ブレーカー が効果的です!

東日本大震災における本震
による火災全111件のうち、
原因が特定されたものが
108件。

そのうち過半数が
電気関係の出火でした。



※日本火災学会誌「2011年東日本大震災 火災等調査報告書」より作成

詳しくは裏面をご覧ください! ▶



地震が引き起こす電気火災とは？

地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことです。

⚠ 「電気火災の事例(その1)」

地震で本棚が倒れ、雑誌が電気ストーブ周辺に散乱。

▶ 停電した状態から通電し、ストーブが作動。

▶ 紙類に着火火災が発生。



⚠ 「電気火災の事例(その2)」

家具が転倒し、「電気コード」が下敷きや引張で損傷。

▶ 通電の瞬間、コードがショート。

▶ 散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火。



感震ブレーカーとは？

感震ブレーカーは、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止めます。

【感震ブレーカーの種類】

分電盤タイプ (内蔵型)	分電盤タイプ (後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5~8万円 (標準的なもの)	約2万円	約5,000円~2万円	3,000円~4,000円程度
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

(注) 住宅分電盤の種類に適した製品をお選びください。

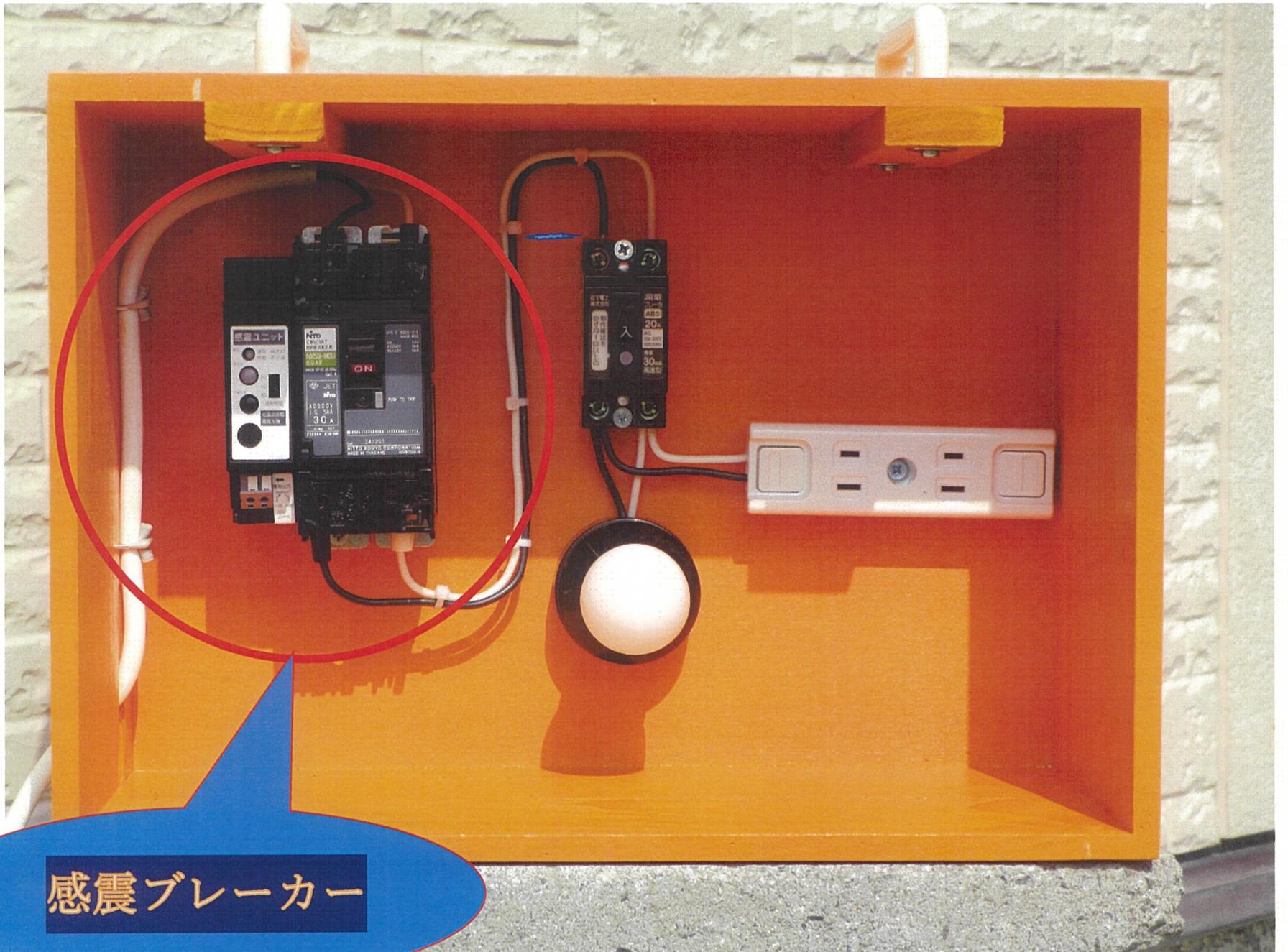


感震ブレーカーを設置して
電気火災から「家」・「地域」を守ろう。

【この資料に関する問い合わせ先】

経済産業省商務情報政策局商務流通保安グループ電力安全課
〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
TEL (03)-3501-1742
経済産業省ホームページ
http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html
内閣府ホームページ
<http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/index.html>





感震ブレーカー